

## こんちゅうかんブログの生き物たち

久保 弘幸<sup>1)</sup>

### 1. はじめに

「口は災いのもと」といいます。3月に佐用町昆虫館で、「こどもとむしの会」の臨時総会があった時、『きべりはむし』の特別号の話になりました。そのとき、八木剛さんの「この10年間でブログに登場した虫を調べたら面白いかも」という発言に、ついうっかり乗ってしまって、「やってみましょうか」と言ってしまったのです。言うてから、「シマツタ」と思ったけれど、言ったからには後には引かれへんなあ。というわけで、せっせと古いブログを掘り起こして、「昆虫館ブログの虫たち」を調べて原稿を書くことになりました。せっかく古いブログを掘り起こすのだから、ついでに鳥やカエルも入れてあります。

ただしここに書いたのは、あくまでも昆虫館ブログに出てきた虫たちで、「佐用町昆虫館やその周辺で見つかり、採集されたりした虫のすべて」ではありません。ちゃんとした学術記録ではなく、その日、その日に目についた虫、印象に残った虫だから、昆虫館を訪ねてくれる子どもたちが、見つけやすい虫だと言えるかもしれませんね（注1）。

はっきりした種名が書かれていない場合は、「ゴミムシ類 SP（ゴミムシ類の一種）」のようにまとめました。短い時間で調べたので見落としもあるかもしれませんし、昆虫館の外から持ち込まれた種を、判断できていない場合もあるかもしれません。そういう意味でも、きちんとした学術記録ではないわけですが、それでも昆虫館で見られる季節の虫たちを知る手がかりにはなるでしょう。

ブログを掘り起こして気がついたのだけれど、ブログに出てきた虫は、その日の館長さんが、どんな虫に興味があるかによって全然違ってきます（これがなかなか面白い）。チョウ好きの館長さんと、ブログにはチョウの名前がずらりと並んでいますし、甲虫好きだと甲虫の名前が多い。春先の虫が少ない時期には、見た虫すべての名前を書くこともできるけれど、虫の種類が増える夏場には、そうはいかないので目立つ虫が中心になっているでしょう。それでも10年分のブログだから、全部まとめたら何か面白いかもしれないと思って、この文を書いてみました。昔から石の上にも3年と言いま

すが、虫といっしょの10年はどんなだったのでしょうか。では前置きはこのへんにして、登場した生き物たちのことを少し書くことにします。

### 2. こんちゅうかんブログの昆虫たち

#### 【10年間でどれだけの生き物が登場したのか】

10年分のブログをまとめた結果が、表1です。10年間で昆虫297種、鳥類12種、哺乳動物1種、花57種、へび2種、両生類6種の、合計375種が登場していました（表1）。ただしこの中には、外部から持ち込まれた生き物～たとえばゲンゴロウやカメの仲間など～は含まれていません。それから昆虫館周辺に住んでいるイモリは、年間を通じてあまりに登場回数が多いので、表1には含めましたが、細かな統計には含めませんでした。イモリ君、ごめんなさい。

それぞれにどんな種類がいたのかは、文末の表2と3にまとめていますのでごらんください。

表1 こんちゅうかんブログに登場した生き物

分 類	種 数
チョウ	66
ガ	35
カゲロウ・トンボ	30
ウスバカゲロウ・ヘビトンボ・トビケラ	4
ハチ	18
コウチュウ	87
アブ・ハエ・ガガンボ	6
チャタテムシ	1
セミ・カメムシ・アメンボ	20
直翅昆虫（カワゲラ・バッタ・キリギリス・ナナフシ・カマキリ・ゴキブリ・ガロアムシ）	30
<b>昆虫計</b>	<b>297 種</b>
鳥類	12
ほ乳類	1
は虫類	2
両生類	6
植物（花）	57
<b>合計</b>	<b>375 種</b>

<sup>1)</sup> Hiroyuki KUBO 兵庫県明石市 兵庫ウスイロヒョウモンモドキを守る会

【チョウとガ】

チョウは66種、ガは35種が登場しています。兵庫県に生息するチョウは120種ほどですから、その半分以上が昆虫館で見られるということになります。ただ実際には、ゼフィルス族などのチョウが、周りにもう少しいるはずですので、実際に昆虫館のまわりで見られるチョウは70種ぐらいにはなるでしょう。

ガがちょっと少ないと思うのですが、夜行性の種、目立たない種が多いからしかたがないでしょう。若い人たちを中心に何度か昆虫館で夜間採集をしていますが、そこで採集されたガの種名は、ブログに書かれていないので含まれていません。それを含めると、種の数は一気に増えると思います。

昆虫館は黒色アゲハ天国

登場するチョウを見てみると、両側を山にはさまれた谷間にあるという、昆虫館の特徴がよくでています。谷すじをチョウ道にする黒系のアゲハチョウ類6種～ミヤマカラスアゲハ・カラスアゲハ・クロアゲハ・オナガアゲハ・モンキアゲハ・ナガサキアゲハ～は、大きくてよく目立つこともあって、数多くブログに登場します。この黒系アゲハチョウ6種を、まとめてグラフにすると、登場する季節がとてもよくわかります(図1)。

黒系のアゲハチョウがブログに登場する181回のうち、いちばん記録が多いのは4月末から5月で、1年間の半分近くになります。6～7月はちょっと中休みになり、8月から9月にかけてもうひとつの山があります。つまり佐用町昆虫館で、黒いアゲハチョウを見たかったら、5月がおすすだということですね。ただしナガサキアゲハだけは、7月を過ぎないと登場しないようです。

この6種の中で、いちばんブログ掲載回数が多いのはミヤマカラスアゲハで47回、第2位がカラスアゲハの42回、第3位はクロアゲハの37回です。

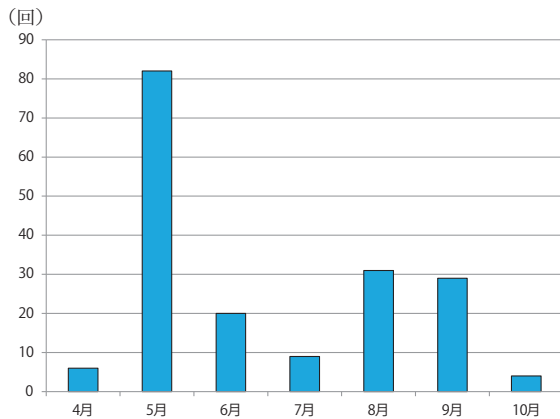


図1 黒系アゲハチョウ6種の月別記録数(2009年～2018年)

シロチョウ1位はあのチョウ

意外に思われるかもしれませんが、昆虫館では、モンシロチョウはあまりたくさん見られません。そのかわり、森の周囲をめぐらしているキタキチョウや、日陰が好きなスジグロシロチョウが多く見られます。おい茂った木に囲まれた、昆虫館らしい特徴ですね(図2)。

スジボソヤマキチョウは、最近、とても少なくなったチョウです。昆虫館でも数回ほど見かけただけで、ブログ登場回数も1回しかありません。この先、注意したいチョウです。

彩り豊かなタテハチョウたち

タテハチョウは、29種も記録されていますが、その中でも昆虫館らしい特徴と言えるのは、スミナガシでしょう。食草のアワブキやミヤマハハソが昆虫館の庭にあるから、卵から成虫まで、季節ごとにいろいろなすがたが見られます。食草が同じアオバセリも、成虫の記録回数よりも、幼虫の記録の方が多ようです。

スミナガシの幼虫はとても変わった姿をしていますし、アオバセリの幼虫は葉を折りたたんで、ギョウザのような巣を作ります。どちらも昆虫館のアイドル的なイモムシ君です。

アカタテハとサカハチチョウも、昆虫館の庭や脇を流れる寺谷川の周辺に食草が多いことから、よく見られるチョウです。幼虫はちょっと怖いような毛虫ですが、毒はありませんし、背中の針も痛くありません。

サカハチチョウは春型と夏型で、まるで別種のように文様が違います。春型は4・5月に、夏型は8・9月に登場することが、今回、ブログを調べてみてよくわかりました。

旅のチョウ アサギマダラ

アサギマダラは、昆虫館で繁殖していますので、とても多くの記録があります(図3)。成虫が特に多くなるのは10月で、南の島へ渡る旅の途中に、昆虫館にやってきました。千種川の流域が、渡りのルートになっているのかもしれません。

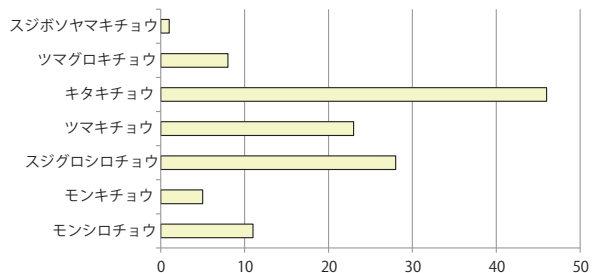


図2 シロチョウ科7種のブログ登場回数(2009年～2018年)

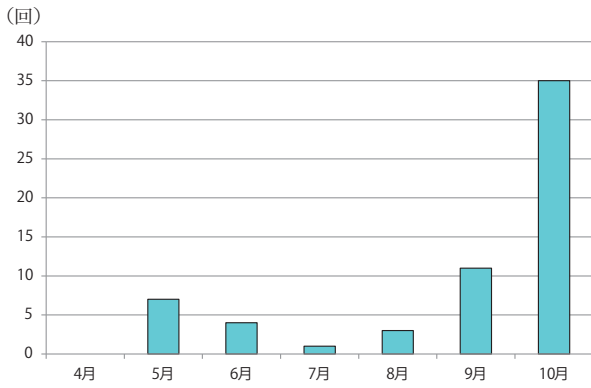


図3 アサギマダラ成虫の月別記録数 (2009年～2018年)

アサギマダラの渡りのルートを知るために、日本、韓国、中国、台湾などの研究者が協力して、マーキング調査をおこなっていますが、昆虫館でも子どもたちがマーキングに参加して、たくさんのアサギマダラを空に放ってきました。もしかすると遠い南の島に、子どもたちがマーキングしたアサギマダラが飛んでいるかもしれませんね。

もう一つの秋のチョウ・ヒョウモンチョウたち

もうひとつ秋を代表するチョウは、ヒョウモンチョウの仲間たちです。これまでに6種類が記録されていますが、ツマグロヒョウモンを除く、オオウラギンスジ、ウラギン、ミドリ、メスグロ、クモガタの5種のヒョウモンは、秋になると見かける回数がぐっと多くなります (図4)。

ガの仲間

ガの仲間には、特に登場回数が多い種はありませんが、その中では、初夏に登場するアゲハモドキが登場回数6回で、一歩ぬけています。ジャコウアゲハを一回り小さくしたようなガで、とても目立ちますので、ブログ登場回数も多いのでしょう。次いで第2位が登場5回のヤママユガ、4回のウスバツバメガ・ホタルガ・セスジズメ・イカリモンガが続きます。ただしセスジズメはすべて「幼虫」の記録です。

イカリモンガは昼間に活動するガで、前翅には碇の形をした、鮮やかなオレンジ色の文があります。よく花で蜜を吸っていますから、目立つのだと思います。

登場回数すくないのですが、私のおすすめはヒゲナガガです。春に昆虫館の庭をよ〜く観察してみると、何か細い、白い糸みたいなものが飛んでいることがあります。これがヒゲナガガの仲間です。特別にきれいな色や文様というわけではありませんが、とても奇妙な姿に、いつも感心させられます。

昆虫館周辺のカの仲間は、まだまだ調べつくされていません。元気な若い方々に、ぜひチャレンジしてもら

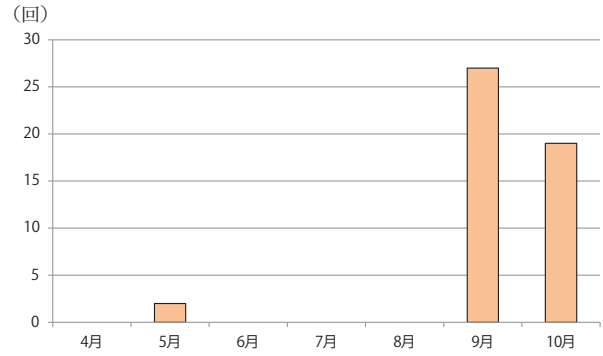


図4 ヒョウモンチョウ類5種の月別記録数 (2009年～2018年)

いたいと思っています。

【甲虫】

甲虫の王様カブ・クワは

甲虫の王様は、なんといってもカブトムシとクワガタムシですが、昆虫館付近ではあまり数は多くありません。2009年8月の洪水までは、川べりにあったオヒョウの樹液に、ネブトクワガタ、スジクワガタ、コクワガタなどの小型クワガタが、いつも集まっていました。残念ながらオヒョウの木は、洪水の後、河川改修で伐採されてしまいました。それでも、昆虫館の庭にパイナップルの餌をしかけておくと、今でもカブトムシ、ミヤマクワガタなどがやってきます。以前、昆虫館でおこなわれたライトトラップ採集では、7.4 cmを筆頭に、7 cmを超えるミヤマクワガタが、一度に5頭も採集されたという記録もありました。

昆虫館はフン虫パラダイス

昆虫館付近で見かけることが多いコガネムシの代表は、オオセンチコガネです。周囲の森には、シカヤサルなどがたくさんいますから、そのフンも多く、フン虫の仲間にとっては最高の環境なのでしょう。

ブログに登場するフン虫には、他にセンチコガネ、ゴホンダイコクコガネ、カドマルエンマコガネやマグソコガネの仲間などがありますが、実際はこの何倍もいるに違いありません。

ゴホンダイコクコガネのカッコよさときたら、カブ・クワも真っ青なほどです。フンコロガシではありませんが、幼虫を育てるとき、♀は卵形のフン玉を作ります。私はまだこの育児球を見たことがなくて、何とか見てみたいと、ウン十年間願ひ続けています。今年こそは見てみたいものです。

神は細部に宿る〜カミキリムシの果てない世界〜

日本には、946種もカミキリムシがいるということです (注2)。これはチョウの種類数の、およそ4倍に

もなります。しかも小型のものが多く、私のようなシロウトでは、何というカミキリかもわからないことがほとんどです。

昆虫館ブログでは 34 種の名前が登場しますが、昆虫館の周囲にいるカミキリムシが、たったこれだけのはずがありません。このあたりは、専門のカミキリ屋さんを書いていただくしかありません。

昆虫館のまわりには、シロスジカミキリやヒゲナガカミキリなどのでっかくてカッコいい大型種もいますし、スネケブカヒロコバナカミキリなんていう、舌をかみそうな名前のカミキリも採集されています。

中でも、背中を水色と黒のツートンカラーで飾ったルリボシカミキリは、昆虫館ブログでは 10 回も登場している、スターです。

夏場の枯木は、カミキリムシやタマムシの集合場所になります。昆虫採集は空ばかり見てちゃダメ。枯木でも、目を皿のようにして見つめてみましょう。

#### ホタル

昆虫館を訪ねてくれる方々に、よく「ホタルはいつごろ見られますか」と質問されます。それこそ、昆虫館ブログをご覧くださいのものです。

ブログに登場したのは、ゲンジボタル・ヒメボタル・オバボタル・マドボタルの 4 種です。このうちゲンジボタルは 6 月上旬から 7 月中旬頃、ヒメボタルは 7 月に登場するようです。昼間はなかなか見つけにくい虫ですが、谷川に沿った木の葉の裏などに、ひっそりととまっているのを見ることがあります。夜間観察会などで、楽しんでいただければと思います。

#### 【セミとカメムシ】

セミを採りたいお子さんには、佐用町昆虫館はあまりおすすめできません。なぜかという、周囲にある木があまりに巨木すぎて、セミが高いところにとまってしまうからです。

それでもセミは鳴き声でわかりますから、ブログには時々登場します。5 月のハルゼミに始まり、夏の始まりを告げるニイニイゼミ、次いでアブラゼミとヒグラシが歌い始め、8 月になるとミンミンゼミとツクツクボウシも参加するという順番です。

セミの記録を見てみると、昆虫館付近でいちばん長く鳴き続けるのはミンミンゼミのようです。8 月に始まり、なんと 10 月にまで記録があります。もしかするとツクツクボウシよりも秋遅くまで鳴いているのかもしれませんが (図 5)。

ところでクマゼミは、一度もブログに登場していませんし、私自身も昆虫館でクマゼミの歌声を聞いたことがありません。たぶんほとんどいないのだと思います。

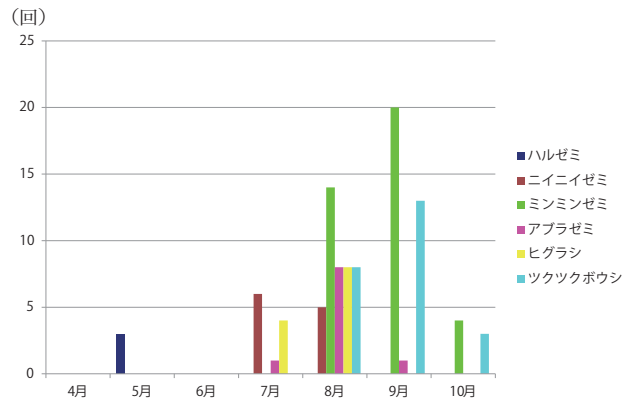


図 5 セミ 6 種の月別記録数 (2009 年～2018 年)

あの「シャンシャンシャン」という群唱は、昆虫館では聞けないのです。暑い場所が大好きなセミなので、比較的気温が低い昆虫館周辺は、あまり住み心地が良くないのかもしれないですね。そのあたりは、小学生の夏休みの「自由研究」向きのテーマになりそうな気がしますが、どうでしょうか。

セミと同じ仲間のスケバハゴロモは、小さいけれど翅の文様が珍しく、子どもたちの良い遊び相手のようです。

カメムシ類は、実際はもっと多くの種がいてもおかしくないのに、わずか 8 種しか記録されていません。小型の種は見つけにくいことと、「カメムシ」というだけで人々に嫌われているせいかもしれないし、一日館長さんにカメムシ・マニアがいないせいかもしれません。

たいへん美しいアカスジキンカメムシは、少ないながらも複数回記録されていますから、昆虫館のまわりで定着しているようです。

また子どもたちに人気のタガメは、昆虫館の池や、夜間採集の明かりに飛んできたことが、2 度あったようです。全国的に少なくなってしまうタガメですが、昆虫館のまわりでは、まだ健在ということですね。

どなたかカメムシを集中的に調べる人はいませんか？

#### 【トンボやカゲロウ、カワゲラ、トビケラ】

セミに比べて、トンボは人気があります。子どもたちの網が届くところを飛んでくれるからでしょう。おかげで 29 種も記録があります。これもブログをたどってみると、みごとに季節の移り変わりを映し出してくれていることがわかります。

春、最初にあられるのがシオヤトンボ。続いてニホンカワトンボやミヤマカワトンボが登場し、ダビドサナエなどがあられます。5 月にはシオカラトンボが飛び始め、7 月になると巨大なオニヤンマが、あたりにニラミをきかせるように溪流沿いを行き来するようになり

ます。そしてタカネトンボが目立つころには、夏の終わりが感じられるようになります。

長いトンボの季節の終わり、9月から10月にかけては、真っ赤になったナツアカネやアキアカネをはじめとするアカトンボが、子どもたちの良いライバルになってくれます。

清らかな寺谷川がすぐそばを流れているので、川虫、つまり幼虫時代を水中で過ごすカゲロウ、トビケラ、カワゲラの仲間も、開館期間の4月から10月にかけて頻繁に目にする昆虫なのに、ブログにはあまり登場しません。あまりに普通に在るせいでしょうか。

でも、ヘビトンボは別格です。幼虫も成虫も、テレビアニメの悪役を思い出すような強烈なキャラクターで、他の昆虫でこんな存在感があるヤツはいません。

幼虫時代を川で過ごす虫たちは、川の水がきれいなのか汚れているのかをよく表しますから、『夏休みの自由研究』のテーマにしたら面白いと思うのですが。

ウスバカゲロウは、昆虫館の玄関前で飼育されて(?)います。幼虫のアリジゴクはよく見るのですが、成虫は意外にブログに登場しません。やはり目立たない虫のようです。

#### 【アブ、ハチ】

ハチは18種が記録されています。春、マルハナバチ類の活動から始まって、秋にスズメバチ類が目立ち始めるまで、昆虫館周辺にはハチはたくさんいます。以前ある館長さんが「アワブキにスミナガシの卵がどっさりついていたのに、幼虫が育ち始めたら、ハチがどんどん捕ってしまう」とボヤいていましたが、実際、そうやってハチがイモムシ・毛虫を捕る数は膨大なものでしょう。人間がいくら頑張っても、ハチたちの半分も見つけれないと思います。

夏になると、昆虫館の庭にある、古びてこわれかけた百葉箱にはたくさんのエントツドロバチが泥の巣を作ります。他にもドロバチやアナバチの仲間が、百葉箱とその脇にぶら下げた竹筒に、毎年たくさんの巣を作っています。巣の中を観察するのはなかなか難しいのですが、今年は竹筒の代わりに、透明のチューブをセットして、ハチたちの巣作りを見られるようにしてみたいと思っています。

ハチは人から恐れられる虫ですが、デタラメに刺したりはしません。静かに観察してみると、ハチの種類によって花の好みが変わったり、巣の作り方が変わったりと、なかなか面白い虫なのです。

ハチと比べてブログ登場回数が少ないのが、アブやハエの仲間です。ブログではわずかに5種が取り上げられただけで、なんともかわいそうな仲間です。そう言う

筆者も、この仲間を一度もブログに書いたことがないので、まことに申し訳なく思っています。

かわいそうなアブの仲間の中で特別あつかいなのが、春一番に登場するビロウドツリアブです。日だまりに浮かんだ綿毛のようなかわいいアブは、春の喜びとともに目にとまりやすいせいか、ブログには3回登場しています。

#### 【バッタ、キリギリス、コオロギ】

この仲間は、夏の終わりごろからブログ登場回数がぐっと増えます。それまでは幼虫で小さかったものが成長し、子どもたちの目にとまるようになるからでしょう。ちょうど他の獲物が少なくなるころに増えてくれるので、子どもたちには嬉しい遊び相手でしょう。

バッタとキリギリスの仲間、合計21種がブログに登場していますが、夜に鳴く虫は目立たないせいか登場回数は多くありません。

昆虫館の竹筒では、ササキリやツユムシの仲間を狩って幼虫を育てるアルマンアナバチやココロアナバチなどが巣を作って、せっせと獲物を運んでいるようすを観察することができます。

#### 【ガロアムシ】

『こどもと虫と昆虫館の歌』に登場するガロアムシは、館の向かい側にある岩礫質の斜面で見つかります。「氷河時代の生き残り」とも呼ばれる虫で、原始的な特徴があるとされています。この虫は、「探してみようと思わなければ見つからない虫」なので、ブログには少ししか登場しません。春まだ浅いころに記録されていますが、見つけるには、かなり根気のいる虫です。

日本には8種のガロアムシがいるということですが、分類や生態にはまだまだ謎が多い昆虫です。そういえば、去年の春にだれかが採集したガロアムシは、昆虫館の冷蔵庫の中で飼育されていて、今も元気です。

#### 【おまけ 鳥とカエル】

昆虫館のもうひとつの名物は、なんと言ってもイモリですが、両生類では3種のカエルが目立っています(図6)。モリアオガエル、シュレーゲルアオガエル、カジカガエルです。どれも4月～10月を通して見られるカエルですが、その中でも、6月～7月上旬に、昆虫館の庭にたくさん見られるモリアオガエルの卵塊は、風物詩になっています。

カエルといえば歌声ですが、6月～8月には、カエルたちが鳴き交わすように歌う夏の昆虫館は、本当にカエルたちのパラダイスだと思います。

鳥は11種が登場しますが、その中ではオオルリ、アカショウビンがツートップで、4月から夏頃まで、くりかえしブログに登場します。ただし、美しい鳴き声が聞

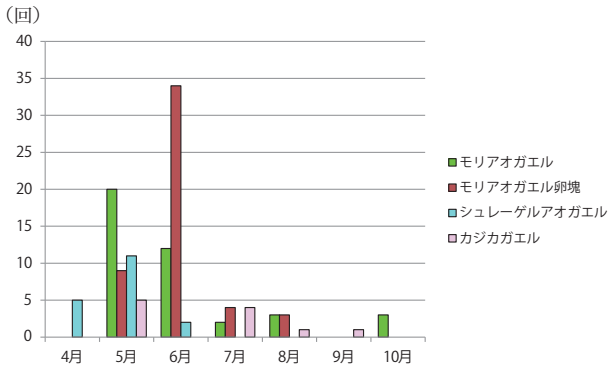


図6 カエル3種とモリアオガエル卵塊の月別記録数 (2009年~2018年)

かれても、姿を見るのはなかなかむずかしいことも多いのですが。

「月・日・星・ホイホイホイ」と鳴くサンコウチョウも、2度ブログに登場していますが、残念ながら筆者は見たこともなく、歌声を聞いたこともないので、今年はずいぶん知り合いになりたいと思っています。

**【おまけ2 花の季節】**

昆虫館の庭には、季節ごとにいろいろな花が咲きます。元々昆虫館のまわりに自生していた花もありますし、前館長の内海功一先生が植えられたものもあると思います。

昆虫館に来られる方には、花を見たいとおっしゃる方も多いので、花カレンダーも追加しておきましょう。ただ、筆者は植物には疎いですし、最初に書いたように、あくまでも「こんちゅうかんブログ」に登場した花だけだということを、ご諒解下さい (図7)。

**3. おわりに**

佐用町昆虫館が廃止の淵から再出発して、もう10年にもなるのか、というのが、昆虫館に関わってきた方々の実感ではないかと思っています。「光陰矢の如し」と言いますが、この10年も、ふり返れば本当に一瞬でした。

昆虫館に来てくれる子どもたちは、10年間でずいぶん入れ替わっていますから、筆者を含むスタッフだけがトシヨリになったわけですが、ここへ来て子どもたちと遊んでいると、楽しくて年齢なんかどうでもよくなります。スタッフの虫好きのおっちゃん、おばちゃんも、おそろく同じ気持ちでしょう。

10年前に昆虫館に来てくれた小学生は、今はもう大学生ぐらいでしょうか。今でも虫好きなままなのか。時々、内海先生がおられた頃に昆虫館に来たことがあるという方が、昆虫館を訪ねてくださいます。佐用町昆虫館がこの先も長く続いて、若いお父さんやお母さんが、「子どもの頃に来ました」とかかわいい子どもの手を引いて訪ねてくれたら、そしてまたいつか、そんな若い世代が昆虫館を引き継いでくれたら、こんなステキなことはない、筆者は夢想しています。

末筆となりましたが、佐用町昆虫館を支えて下さった町関係者の皆さん、地元の皆さん、災害の際に助けていただいたボランティアの皆さん、そして何よりも、昆虫館を訪ねてくれた多くの子どもたちに心からの感謝を申し上げます。

昆虫館の10年は、また2009年8月の水害からの10年でもあります。今、改めて水害で尊い命を落とされた方々のご冥福を心よりお祈りしつつ、拙文の筆を置くことにします。

注1) ただしブログに名前が登場しても、外部からの持ち込み、あるいはその可能性が高いと判断した場合は、ここでは取り扱わなかった。またブログの文章にはなくても、写真が掲載されていて種が判断できたものは取り上げた。また種名が特定できないものの、どの虫の仲間かが記録されている場合には、例えば「ゴミムシSP」として収録した。この場合には、表や本文中に記載する種数に含めていない。

注2) 大林延夫・新里達也編2007『日本産カミキリムシ』東海大学出版会による。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
サクラ・シラネアオイ・フッキソウ・イカリソウ・ミツマタ・キクザキイチゲ・カタクリ・ムサシアブミ・ヤマブキソウ・イチリンソウ・アセビ・ミノコバイモ・フクジュソウ・モクレン・コンロンソウ・キケマン・キランソウ・カキドオシ・スマレ・ミスミソウ・スマレサイシン	■						
タチツボスミレ・オドリコソウ・ハリマムシグサ・コウヤミズキ・アオキ・ヤマブキソウ・ヤマシャクヤク・ニリンソウ・ラショウモンカズラ・アマナ・クリンソウ・ムサシアブミ・ホタルカズラ・ムラサキケマン・ハクサンハタザオ	■	■					
エビネ・ホウチャクソウ・フタリスズカ・ヤブデマリ・サワフタギ・ヤマシャクヤク・ハクウンボク		■					
サイハイラン・キクガラクサ・キエビネ		■	■				
ヤマボウシ・シチダンカ・ギボウシ			■				
ヤブミョウガ・チトセカズラ				■			
キツリフネソウ・スズムシバナ・ナンバンギセル・ナツエビネ				■	■	■	■
ツリフネソウ・ヒヨドリバナ・フジバカマ						■	■

図7 こんちゅうかん花ごよみ

表2 こんちゅうかんブログに登場した昆虫たち

<b>チョウ</b>
アオスジアゲハ・アオバセセリ・アカタテハ・アゲハチョウ・アサギマダラ・アサマイチモンジ・イシガケチョウ・イチモンジセセリ・イチモンジチョウ・ウスバシロチョウ・ウラギンシジミ・ウラギンヒョウモン・オオウラギンシジミ・オオチャバネセセリ・オオムラサキ・オナガアゲハ・カラスアゲハ・キアゲハ・キタキチョウ・キタテハ・キマダラセセリ・クモガタヒョウモン・クロアゲハ・クロコノマチョウ・クロヒカゲ・コジャノメ・コチャバネセセリ・コツバメ・ゴマダラチョウ・コムスジ・コムラサキ・サカハチチョウ・サトキマダラヒカゲ・ジャコウアゲハ・ジャノメチョウ・ジャノメチョウSP・シロチョウSP・スジグロシロチョウ・スジボソヤマキチョウ・スミナガシ・セセリチョウSP・ゼフィルス類SP・ダイミョウセセリ・ツバメシジミ・ツマキチョウ・ツマグロキチョウ・ツマグロヒョウモン・テングチョウ・トラフシジミ・ナガサキアゲハ・ヒオドシチョウ・ヒカゲチョウ・ヒメアカタテハ・ヒメウラナミジャノメ・ヒメキマダラセセリ・ヒメジャノメ・ヒョウモン類SP・ベニシジミ・ホソバセセリ・ミスジチョウ・ミドリヒョウモン・ミヤマカラスアゲハ・ミヤマセセリ・ムラサキシジミ・メスグロヒョウモン・モンキアゲハ・モンキチョウ・モンシロチョウ・ヤマトシジミ・ルリシジミ・ルリタテハ
<b>ガ</b>
アゲハモドキ・イカリモンガ・イラガ・ウスバツバメガ・ウンモンズズメ・オオミズアオ・キアシドクガ・キイロスズメ・キノカワガ・キマダラオオナミシヤク・クロハネシロヒゲナガ・シャチホコガ・シロシタホタルガ・シロツバメエダシヤク・シロモンノメイガ・スジモンヒトリ・スズメガSP・セスジズメ・セミヤドリガ・ツバメエダシヤクSP・ヒメクロイラガ・ヒメクロホウジャク・ヒメヤママユ・ピロードズズメ・フクラスズメ・フタスジヒトリ・ベニスズメ・ホウジャク・ホシヒメホウジャク・ホシホウジャク・ホソバシャチホコ・ホタルガ・マダラツマキリヨトウ・モモイロツマキリコヤガ・モモズメ・モンクロシャチホコ・ヤママユガ
<b>カゲロウ・トンボ</b>
アオハダトンボ・アカトンボSP・アキアカネ・ウスバキトンボ・オオシオカラトンボ・オジロサナエ・オナガサナエ・オニヤンマ・カゲロウSP・カトリヤンマ・クロスジギンヤンマ・コオニヤンマ・コシアキトンボ・コシボソヤンマ・サナエトンボSP・シオカラトンボ・シオヤトンボ・タカネトンボ・ダビドサナエ・ナツアアカネ・ニホンカワトンボ・ハグロトンボ・ハラビロトンボ・ヒメアカネ・ヒメサナエ・マユタテアカネ・ミヤマアカネ・ミヤマカワトンボ・ミルンヤンマ・モンカゲロウ・ヤブヤンマ・ヤマサナエ・ルリボシヤンマ
<b>ウスバカゲロウ・ヘビトンボ・トビケラ</b>
ウスバカゲロウ・クサカゲロウ・トビケラSP・ヒゲナガカワトビケラ・ヘビトンボ
<b>ハチ</b>
アルマンアナバチ・アントッドロバチ・オオフタオビドロバチ・オオマルハナバチ・カブラハバチ・キイロスズメバチ・キオビツチバチ・キボシアシナガバチ・キムネクマバチ・クマルハナバチ・コマルハナバチ・シロスジヒゲナガハナバチ・スズメバチSP・トラマルハナバチ・ニホンミツバチ・ハバチSP・ヒメバチSP・ホシアシントハバチ・マルハナバチSP・ミカドトクリバチ・ミツバチSP・ムモンホソアシナガバチ・ルリモンハナバチ・花バチSP
<b>甲虫</b>
アイヌハンミョウ・アオカナブン・アオスジカミキリ・アオタマムシ・アオバナガクチキムシ・アオハムシダマシ・アオマダラタマムシ・アカハネムシ・イッシキキモンカミキリ・ウスチャコガネ・ウバタマムシ・エンマムシ類SP・オオアオカミキリ・オオセンチコガネ・オオゾウムシ・オオツチハンミョウ・オオヨツスジハナカミキリ・オバボタル・カドマルエンマコガネ・カナブン・カミキリムシSP・ガムシ・カメノコテントウ・キベリハムシ・キマワリ・クロカタビロオサムシ・クロカナブン・クロシデムシ・クロタマムシ・ゲンジボタル・コクワガタ・ゴホンダイコクコガネ・ゴミムシ類SP・サビカミキリSP・サビキコリSP・シギゾウムシSP・ジョウカイSP・ジョウカイボン・シラホシカミキリ・シラホシテントウ・シロスジカミキリ・スギノアカネトラカミキリ・スネケブカヒロコバネカミキリ・セスジヒメハナカミキリ・セマダラコガネ・センチコガネ・タケトラカミキリ・タテジマカミキリ・ツチハンミョウ・ツヤケシハナカミキリ・トゲヒゲトラカミキリ・トサカシバンムシ・トラカミキリSP・トラフカミキリ・トラフハナムグリ・ナガゴマフカミキリ・ナカジロサビカミキリ・ナガバヒメハナカミキリ・ニイジマトラカミキリ・ニワハンミョウ・ネプトクワガタ・ノコギリカミキリ・ノコギリクワガタ・ハラグロオオテントウ・ハンミョウ・ヒゲナガオトシブミ・ヒゲナガカミキリ・ピックニセハムシハナカミキリ・ヒナルリハナカミキリ・ヒメクロオトシブミ・ヒメクロトラカカミキリ・ヒメヒゲナガカミキリ・ヒメボタル・ヒラタシデムシ・ヒラタドムシ・ピロウドカミキリ・フタオビヒメハナカミキリ・フトカミキリSP・フトナガニジゴミムシダマシ・ベッコウヒラタシデムシ・ベニカミキリ・ベニヒラタムシ・ヘリグロリンゴカミキリ・マイマイカブリ・マグソコガネSP・マダクロホシタマムシ・マドボタル・ミヤマクワガタ・ミヤマルリハナカミキリ・モンキカミキリ・ヤツメカミキリ・ヤナギハムシ・ヤマトタマムシ・ヨツボシカミキリ・ラミーカミキリ・リンゴコフキゾウムシ・ルリボシカミキリ
<b>アブ・ハエ・ガガンボ</b>
オオヒゲナガハナアブ・ガガンボ・コウヤツリアブ・ツリアブSP・ピロウドツリアブ・ホソヒラタアブ・ムシヒキアブ
<b>チャタテムシ</b>
チャタテムシ
<b>セミ・カメムシ</b>
アカアシカスミカメムシ・アカスジギンカメムシ・アブラゼミ・アメンボ類SP・ウシカメムシ・エサキモンキツノカメムシ・カメムシSP・クサギカメムシ・クチブトカメムシSP・コセアカアメンボ・スケバハゴロモ・セアカツノカメムシ・タガメ・タケウチトゲアワフキ・ツクツクボウシ・ツマグロオオヨコバイ・トホシカメムシ・ニイニイゼミ・ハルゼミ・ヒグラシ・ミンミンゼミ・ヤスマツアメンボ・ヨコツナサシガメ
<b>直翅系昆虫 (カワゲラ・バッタ・キリギリス・ナナフシ・カマキリ・ゴキブリ・ガロアムシ)</b>
イボバッタ・エダナナフシ・オオゴキブリ・オオヤマカワゲラ・オンブバッタ・カヤヒバリ・ガロアムシ・カワゲラSP・キリギリス・キリギリス類SP・クサキリ・クルマバッタ・クルマバッタモドキ・コガタコオロギ・コバネイナゴ・ササキリ・サトクダマキモドキ・ショウリョウバッタ・セスジツユムシ・トゲナナフシ・トノサマバッタ・ハタケノウマオイ・ハラビロカマキリ・ヒナカマキリ・ヒシバッタ・ヒメカマキリ・ヒメギス・ヒメクダマキモドキ・ヒメコオロギ・ヤスマツトビナナフシ・ヤブキリ・ヤマトフキバッタ

表3 こんちゅうかんブログに登場した昆虫以外の生き物

<b>鳥類</b>
アカショウビン・オオルリ・カワガラス・キジ・キビタキ・サンコウチョウ・シジュウカラ・ジョウビタキ・ヤマガラ・ヤマセミ・ルリビタキ
<b>ほ乳類</b>
キクガシラコウモリ
<b>両生類</b>
カジカガエル・シュレーゲルアオガエル・ツチガエル・トノサマガエル・モリアオガエル・ヤマアカガエル
<b>は虫類</b>
ジムグリ・ヤマカガシ